

令和元年度 明野地域包括支援センター自己評価報告書

		包括情報	
自己評価実施日	令和元年12月18日	法人名	社会医療法人 平成醫塾
行政評価実施日	令和2年1月15日	責任者	小川 雅子
運営協議会開催日	令和2年3月24日	所在地	苫小牧市明野新町5丁目2番4号
		連絡先	0144-53-4165

地域情報	
担当地区	明野新町、泉町、音羽町、三光町、新明町、住吉町、字高丘(55・56・60除く)、日の出町、双葉町、字丸山、美園町、柳町
高齢者人口	7,615 人(R元.10.1現在)
高齢化率	26.9 %(R元.10.1現在)
地域特性	高齢化率は住吉町が35%と高く、音羽町・泉町も平均を超えて高い。在宅医療に取り組んでいる医療機関で、訪問診療を行っているところが2ヶ所ある。介護保険施設がひとつもなく、他の高齢者の生活施設も他の圏域に比べ少ない。高齢者と若い世代の接点が少ない地域が多く、町内会の運営や後継者に悩んでいる。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 2 人	常勤職員 6 人
主任介護支援専門員 2 人	非常勤職員 2 人
社会福祉士 3 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 5.1年

総合評価	
自己評価	行政評価
<p>4月非常勤で新たなセンター長着任、7月16日明野新町へ事業所移転に伴い、名称も明野地域包括支援センターに変更、11月法人人事で、常勤の社会福祉士が入れ替わるなど体制の変更があった。搜索模擬訓練は1町内会で実施。認知症初期集中支援チームの活動は、前年度よりも少し稼働増。地域ケア会議の運営は前年度同様の課題は残った。次年度に向け両事業に対して、十分な稼働ができる様内部で協議。対象ケース検討の機会を定期的に毎週設け、事業所全体で取り組む姿勢をつくった。</p>	<p>今年度地域包括支援センターの移転や体制変化があったが、昨年度課題であった認知症初期集中支援チームや地域ケア会議などを進めるために、組織としてどうあるべきか内部協議を重ね、前向きな姿勢で取り組もうと努めている。今後は、個別の積み重ねから地域課題の把握・整理に努め、地域住民や関係者との継続した連携のもと、地域づくりを進めることを期待する。</p>

評価項目		
1 運営体制		
	(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている	
	(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している	
	(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている	
	(4)個人情報含む記録物を適切に保管している	
	(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している	
	(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている	
	(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている	
	(8)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りが無い(占有率50%)未満	
	(9)相談・面談室のプライバシーが確保されている	
	(10)休日・夜間の連絡体制が整備されている	
	自己評価	行政評価
特記事項	相談・面接室のプライバシー確保は、事務所移転で相談室も1室から3室と増え、玄関に近い部屋は事務所を通らずに入室可能とした。毎朝のミーティングや週1回の事例検討、対応後のケース報告など、職員間で情報共有に努めた。	職員間の情報共有については、毎朝のミーティングに加え週1回の事例検討など職員意欲を形にした体制をとっている。また、センターの移転に伴い、昨年課題であった面談室の改善は図られている。今後意識的な研修確保にも努めていただきたい。
2 共通の支援基盤構築		
	(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている	
	(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている	
	(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている	
	自己評価	行政評価
特記事項	母体法人のホームページ、ステイでの月1回の「ちよこっと相談茶屋」(フードコート内)で常時掲示。認知症に関する人的社会資源(認知症サポーター・見守りたいなど)の活動を推進する取り組みなどは継続。今年度は2町内会役員会、1老人クラブ、2ふれあいサロン、1民生委員定例会などで周知活動実施。次年度町内会や民生委員の会合、圏域内の居宅との意見交換から地域課題の把握ができる仕組みづくりを意識して取り組んだ。	今年度は様々な関係者への積極的な周知活動に努めている。資源把握の1つとして既存パンフレットの整理など意識した活動に繋げていることを評価する。把握したニーズなどの整理を進めながら、資源開発など取り組むことを期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
	自己評価	行政評価
特記事項	<p>困難ケースは月に1度の内部会議、必要時に声をかけて3職種で協議。12月からは毎週月曜日に認知症初期集中支援チームや地域ケア会議の対象も考慮しながら、事業所全体でケース検討を実施。内容は、総合相談記録内に記載して保存。虐待対応は、チェックシートが有効活用されていないため、今後は意識して活用していく。</p>	<p>定期的及び必要時に3職種の協議を重ね、様々な課題など含め明野地域包括支援センター全体でケースの共有するよう努めている。虐待対応については、昨年度課題としていたチェックシートの活用がされていないことや、市との連携の在り方に対する振り返りを生かした対応を期待する。</p>
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
	自己評価	行政評価
特記事項	<p>認知症初期集中支援チームや地域ケア会議の対象ケースの選定は、包括内部のケース検討会などを活用。地域ケア圏域会議は個別ケースの蓄積を基本とし、次年度は町内会や民生委員の会合、圏域内の居宅との意見交換などからも地域課題の把握に努めたり、地域の社会資源情報を提供しやすいように整理することにも取り組みたい。</p>	<p>定期的な地域ケア会議の実施はされておらず、内部協議を実施しながら効果的な開催ができることを期待する。来年度に向けた圏域内の居宅介護支援事業所との意見交換に向けた協議を進め、連携体制含めた強化に繋げることを期待する。</p>

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<p>毎年の世帯調査、毎月圏域内のステイで開催している「ちょこっと相談茶屋」において、適切な支援と情報提供をしている。予防プランにおいては、状況が改善してサービス終了のケースもでてきている。</p>	<p>事業に繋がらない方へのフォローや自立支援に向けた取組意識をもち、支援していることを評価する。</p>
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	<p>介入する町内会を年度当初に決め、認知症サポーター養成講座と搜索模擬訓練を実施。搜索模擬訓練は、圏域内の認知症見守りたいの参加を積極的に取り組んでいる。今年度は圏域内の3つの小学校、1つの中学校、コープさっぽろに対して、認知症サポーター養成講座実施に協力。また、認知症フレンドリーカレッジの運営についても、認知症地域支援推進員と連携して運営に協力した。</p>	<p>地区を意識した認知症サポーター養成講座・搜索模擬訓練の実施や、認知症初期集中支援チームへの繋ぎについて、昨年度からの改善を図ろうとする意識を評価する。認知症初期集中支援チームで取り組むことへのスムーズな判断、認知症地域支援推進員との連携を強め、地域づくりへの取組発展に繋げていくことを期待する。</p>
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<p>今年度も在宅医療・介護連携の推進に関する研修や会議に参加。個別ケースでも他職種・他事業所が相談しやすいよう、顔の見える関係づくりと必要な情報を提供を行い、連携が取りやすい体制を心がけた。今後も在宅医療と介護連携が進むように、体制づくりに努める。</p>	<p>医療機関で実施のケースカンファレンスへの参加や、支援経過・結果の連絡など心がけ、顔の見える関係づくり、連携が進むよう努めている。</p>

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
特記事項	自己評価	行政評価
	介入する町内会については、生活支援コーディネーターとも連携し、地域づくりに向けて動いた。 町内会の会報やあらゆる場面で、圏域の資源把握を実施した。	普段の活動による資源把握や生活支援コーディネーターとの連携に努めている。地域ケア会議などを実施することでより密な情報共有や、圏域としての地域課題が整理できるよう体制整備を行い、地域づくりを進めることを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	介護予防教室で必要時、個別相談に応じたり、終了者へは訪問を行い継続した支援を実施。また、今年度は町内会ふれあいサロンの運営に協力しながら、地域情報を把握。老人クラブや企業からの講演要請があり、介護予防などの講話を実施。	介護予防教室や町内会、サロンなどへの介入方法を考慮しながら活動している様子が見えてくる。介護予防の重要性をどのように市民に伝えていくか、議論を重ねながら活動に繋げることを期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容

- 1、認知症初期集中支援チームの対応、地域ケア会議(個別・圏域)開催を包括の今年度の事業計画に基づき、計画的に実施して行く。
- 2、認知症施策の推進のため、「認知症サポーター養成講座」と「搜索模擬訓練」を圏域内の未実施地域である高丘泉町内会と日の出三光町内会(搜索模擬訓練のみ)に対し、計画的に介入して実施。
- 3、圏域全体マップを更新、地域包括ケアの推進に活用する。

2 今年度事業の達成状況及び成果

- 1、認知症初期集中支援チームの運営⇒チーム員が2名増員、ケース抽出方法を内部で見直すことにより、前年度からは稼働が増えた。地域ケア会議の運営⇒個別会議開催後に内部で反省会を実施、対象ケースの抽出方法を見直し、会議開催の一人当たりの業務量負担を減らし、効率的な運営のため、行程表の作成や役割分担業を検討。来年度の定期開催に向けて、内部で準備を進めた。
- 2、認知症施策の推進⇒認知症サポーター養成講座と搜索模擬訓練を高丘泉町内会で展開。町内会主体での開催を企画段階から支援、地域住民への正しい知識の普及を図り、認知症の理解と見守り意識の向上、地域ネットワークづくりへ繋げる目的で行った。日の出三光町内会については、町内会の緒事情で今年度は見送りとなり、時期や手法を含めて再検討となった。また、圏域内の認知症キャラバンメイトと協力して、「認知症サポーター養成講座」を圏域内の3つの小学校(緑小・美園小・明野小)と1つの中学校(明野中)に対して開催。地域における支援ネットワーク構築を推進した。
- 3、圏域全体マップは単なる更新でなく、リニューアルの方向となった。地図の到着が遅かったため、内容も含めて次年度に作成の方向。

3 達成できた又は達成できなかった原因

- <目標を達成できなかった認知症初期集中支援チームの活動と地域ケア会議の開催運営に対して>
- ①認知症初期集中支援チーム⇒目標とするところまでは到達しなかったが、チーム員の増員、対象ケースの選定方法の見直し、内部での事前打ち合わせの回数増により、去年よりは稼働を増やすことができた。
 - ②地域ケア会議⇒目標とするところまでは到達しなかったが、内部で反省会を実施。定期的なケース検討などからの対象ケース選定、会議開催の一人当たりの業務量負担を減らし、効率的な運営のため、行程表の作成や役割分担業を検討。来年度に定期開催ができるように内部で準備を進め、圏域内の町内会や民生委員、居宅介護支援事業所などと情報交換を行い、個別課題や圏域課題の把握にも努めていく。

4 課題及び今後の取り組み

<課題>

- ・認知症初期集中支援チームの活用と地域ケア会議の計画的な開催運営
- ・地域活動の拡大

<今後の取り組み>

- ・通常業務への位置づけとなるように、意識と業務整理をして全体で取り組んでいく。